

筋硬結の病態生理と筋痛治療の実際 ー股・膝関節屈曲制限をクローズアップー

肩関節周囲炎や変形性膝関節症にみられる屈曲制限は、筋の短縮痛に伴う防御性筋収縮が関連していることは少なくありません。この短縮痛の原因に筋硬結が関わっていることは以前から報告されています。しかし、筋硬結の病態が理解されていないまま、個々のセラピストの経験に基づいて治療介入されているように思います。そのため、筋硬結の病態を理解・整理した上で、治療介入を行う必要があります。治療介入では、筋硬結部に機械刺激（伸張、圧迫、擦過など）を加えますが、筋硬結を有する骨格筋を同定し、かつ適刺激が加わるような方向や強さが大切となります。

そこで、本セミナーでは、第一に筋硬結の病態を整理し、第二に股関節屈曲時の股関節前面の“つまり感”や、膝関節屈曲時の膝窩付近の“はさまり感”に関連した骨格筋を同定しながら、機械刺激を加える方法を紹介します。Zoomによるセミナーではありますが、臨床で実践できるようにわかりやすく解説します。

- 開催日時：令和5年2月22日（水）19:00～21:10
- 講師：菅原 仁（一般社団法人湘南運動科学研究所）
青野正宏（アオノ治療院）
- 参加費：2,000円
- 定員：40名程度
- 参加方法：オンライン（Zoom）
- お申込方法：ホームページよりお申し込みください。

<https://shonanries.com/>

※定員になり次第締め切ります。

- 対象：理学療法士、柔道整復師、
あん摩マッサージ指圧師、鍼灸師など

